

ぐるり39

～自治調査会だより～

2015
8

NO.023

[発行日]
2015.8.1



【写真提供】利島村

- ▶ 理事会・評議員会を開催しました 2
- ▶ オール東京62市区町村共同事業みどり東京・温暖化防止プロジェクト
市町村助成事業紹介 3
 - ・武蔵野市「第8回むさしの環境フェスタ」
 - ・三鷹市「エコミュージカルとエコイベント」
 - ・日の出町「みどりのカーテン普及キャンペーン事業」
- ▶ 多摩交流センターだより
 - ・多摩発・遠隔生涯学習講座 4
 - ・東京雑学大学9月講義案内 4
- ・第19回多摩の歴史講座
多摩の縄文人とくらし ―台地、川、海とのかかわりあい― ... 5
- ▶ 自治調査会の調査研究を振り返る
～最近のトピックスとの関わりなど～ 6
- ▶ 編集後記 7
- ▶ とっておきスポット～“ココ”で存じますか?～利島村 8

Contents

8月の内容

公益財団法人

東京市町村自治調査会

理事会・評議員会を開催しました

平成27年5月に開催した理事会・評議員会で承認・決定された主な内容を簡単にご紹介します。

I. 平成26年度事業報告及び収支決算(下記の内容が承認されました。)

※下記の内容(一部を除く)は、当調査会ホームページ(<http://www.tama-100.or.jp/>)にて閲覧・ダウンロードすることができます。

【事業報告】

1. 調査研究事業

- ①市町村の広域的・共通の課題についての調査研究(5テーマについて調査研究報告書を発行)
- ②市町村職員の身近な疑問等に関する調査(情報提供誌「ニュース・レター」に掲載)
- ③毎年度実施の調査(多摩地域データブック2014(平成26)年版 他3件を発行)

2. 共同事業

- ①多摩・島しょ広域連携活動助成事業
- ②多摩・島しょスポーツ振興事業助成事業
- ③みどり東京・温暖化防止プロジェクト
- ④協賛事業(愛らんどリーグ及び東京愛らんどフェア)

3. 普及啓発事業

- ①出張フォーラム実施(調査研究結果の市町村への還元)
- ②シンポジウム「多摩地域の空き家を考える」開催
- ③情報提供誌「ニュース・レター」発行
- ④機関紙「ぐるり39」発行

4. 広域的市民活動への支援(多摩交流センター事業)

- ①交流の場の提供
- ②広域的な市民ネットワーク活動等への助成
- ③生涯学習講座開催(TAMA市民塾との共催)
- ④多摩地域に関する情報の発信
- ⑤多摩交流センター開設20周年記念事業の開催 等

【収支決算】(貸借対照表)

資産の部		負債・正味財産の部	
流動資産	131,901千円	負債の部	41,553千円
固定資産	4,581,002千円	指定正味財産	3,790,000千円
		一般正味財産	881,351千円
合計	4,712,904千円	合計	4,712,904千円

※各数値を四捨五入しているため、表内の合算値と合計欄の値が一致しない部分があります。

II. 評議員・理事の選任

1. 退任した評議員の後任として、新たに次の方が選任されました。

高野律雄(府中市長)・北川穰一(昭島市長)・長友貴樹(調布市長)・稲葉孝彦(小金井市長)
小林正則(小平市長)・高橋都彦(狛江市長)・丸山浩一(西東京市長)

2. 理事・監事の任期満了に伴い、新たに次の方が選任されました。

役職	氏名
理事長	並木 心 (羽村市長)
副理事長	河村 文夫 (奥多摩町長)
常務理事	石井 恒利 (東京都市長会事務局長)
理事	石森 孝志 (八王子市長)
理事	清水 庄平 (立川市長)
理事	竹内 俊夫 (青梅市長)
理事	渋谷 金太郎 (清瀬市長)
理事	高橋 勝浩 (稲城市長)
理事	橋本 聖二 (日の出町長)
理事	前田 福夫 (利島村長)
監事	邑上 守正 (武蔵野市長)
監事	坂本 義次 (檜原村長)





オール東京62市区町村共同事業 みどり東京・温暖化防止プロジェクト

市町村助成事業紹介

「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」では、自然環境保護及び地球温暖化防止についての普及・啓発を目的とする市区町村の自主事業に対する助成を行っています。今月も、多摩・島しょ地域自治体の助成金活用事業を順番に紹介しています。

かれん

シーナ



かれんとシーナは、みどり東京・温暖化防止プロジェクトのイメージキャラクターです。

① 武蔵野市 「第8回むさしの環境フェスタ」

今年で8回目の開催となる「むさしの環境フェスタ」は、来場者のみなさんに環境に配慮した暮らしについて考えていただく機会として実施しています。

出展内容は、来場者が関心を持ちやすいようにエネルギー・自然・食・3R等テーマを広く設定し、展示のみならず体験型の企画も多く揃います。

出展者は市民団体や事業者、学生団体などです。出展者全体で話し合いながらイベントの開催方法を決めており、各団体間の交流にもつなげています。

今年度は11月1日(日)に開催予定です。市内外からのご来場をお待ちしています。

【問合せ先】武蔵野市環境政策課 TEL:0422-60-1841



② 三鷹市 「エコミュージカルとエコイベント」

「エコミュージカルとエコイベント」が、みたか環境活動推進会議と三鷹市の協働により、6月27日(土)に三鷹市公会堂で開催されました。エコミュージカルは、「ブレーメンの音楽会 エコミュージカルコンサート～水は地球の『い・の・ち』～」を上演しました。当日は543人の方が集まり大盛況でした。子どもたちは、エコミュージカルの前にエコイベントで作ったエコ楽器を鳴らして、ブレーメンの音楽隊の動物たちと一緒に演奏しました。楽しいステージをとおして環境についてみんなで一緒に考えることができました。

【問合せ先】三鷹市環境政策課 TEL:0422-45-1151



③ 日の出町 「みどりのカーテン普及キャンペーン事業」

家庭でできる地球温暖化防止を目的に、4月23日・24日にゴーヤ苗の配布を行いました。家の窓辺につる性植物を這わせて作った自然のカーテンは、夏の強い日差しを和らげて、室温上昇を抑える効果があります。ゴーヤは家庭でも育てられるため人気があり、当日は多くの方が来庁されました。

盛夏のいま、苗が成長して、きれいなカーテンを各家庭で作っていると思います。夏場のエアコン使用を抑え、節電意識を高めていただくことで、小さなことでも地球温暖化防止に役立つという意識を、今後も町として推進していきたいと考えています。

【問合せ先】日の出町生活安全安心課 TEL:042-597-0511





多摩交流センターだより

インターネット
放送による

多摩発・遠隔生涯学習講座

NPO法人全国生涯学習ネットワーク・公益財団法人東京市町村自治調査会共催
後援：武蔵野市教育委員会



8・9月開催予定の講座案内

138回

日時 平成27年8月13日(木) 14:30から約1時間
題名 江戸城天守を再建しましょう
講師 太田 資暁 氏(認定NPO法人 江戸城天守を再建する会 会長・太田道灌公墓前祭実行委員会会長)
内容 日本の多くの都市には、その中心に城がありますが、東京には残念ながら中心になるものがありません。然るに江戸時代の初期には五層の大天守閣がそびえておりました。明暦の大火で燃えた後、幕府は何度も再建を図ったのですが、財政難でついに

再建されませんでした。今日、オリンピックも決まり、東京を見直す機会が到来しました。是非江戸城天守を再建したいものです。

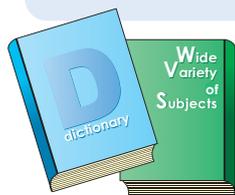


139回

日時 平成27年9月10日(木) 14:30から約1時間
題名 “御門訴事件”から学ぶもの
講師 飯畑 幸男 氏(郷土史研究者)

- 受講料 無料(ただし資料代100円)
- メイン会場 多摩交流センター 第2会議室(申し込みは必要ありません。直接会場にお越しください。)
- サテライト会場 武蔵野市かたらいの道
- ライブ中継・VOD視聴について
多摩発・遠隔生涯学習講座のホームページ(<http://zsgn.dp-21.net/tsgn/>)から無料で、当日の講座の視聴(ライブ中継)や過去の講座を視聴(VOD視聴)することができます。

問合せ先：TEL 070-2648-3520(高原) TEL 0422-52-0908(菅原)



特定非営利活動法人

東京雑学大学

9月講義案内

(会員は受講料無料・会員外は9月10日を除き、1回につき500円)

番号	日時	講義テーマ	教授	教場
第1003回	9月3日(木) 14:00から	科学技術と社会のつながり	鈴木 誠史 氏 (サイエンスインストラクター・元埼玉大学教授)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 徒歩8分)
第1004回 ※	9月10日(木) 14:30から	“御門訴事件”から学ぶもの	飯畑 幸男 氏 (郷土史研究者)	遠隔視聴(サテライト)会場 武蔵野市かたらいの道 (JR三鷹駅北口 徒歩3分)
第1005回	9月17日(木) 14:00から	生きることは動くこと ～口八丁、手八丁、足八丁で生きよう	山本 思外里 氏 (東京都民間カルチャー事業協会顧問)	田無公民館 (西武新宿線田無駅南口 徒歩3分)
第1006回	9月20日(日) 14:00から	2020東京五輪の ビジョンづくり(仮題)	國米 家己三 氏 (フリージャーナリスト)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 徒歩8分)
第1007回	9月27日(日) 14:00から	国史跡 下野谷遺跡の魅力と挑戦	亀田 直美 氏 (西東京市教育委員会社会教育部社会教育課・学芸員)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 徒歩8分)

☆申し込みは必要ありません。直接会場にお越しください。

※第1004回は、第139回多摩発・遠隔生涯学習講座と共同で実施します。メイン会場は多摩交流センターです。

[問合せ先] TEL 042-465-3741(浅田) TEL 0422-52-0908(菅原)

たましん地域文化財団・
東京市町村自治調査会共催

第19回 多摩の歴史講座

多摩の縄文人とくらし —台地、川、海とのかかわりあい—

近年の関東の縄文時代研究では、多摩川や荒川の流域から東京湾岸への石器素材の流通や、土器型式から中部地方との文化の繋がりなどが解明されています。また縄文人の骨の研究から、生活や社会に関する研究も進んでいます。本講座では、最新の発掘成果をふまえて、武蔵野台地や多摩丘陵、多摩川・野川や荒川、東京湾岸のかかわりあいから、多摩の縄文人のくらしや社会を考えます。

第1講

9月25日(金) 13:30～15:30

「戦後の縄文時代研究で明らかになった縄文人の生活と美」

講師：石井則孝（元日本遺跡学会会長）

第2講

10月9日(金) 13:30～15:30

「下総台地の貝塚にみる武蔵野との交流」

講師：堀越正行（千葉市立加曽利貝塚博物館館長）

第3講

10月23日(金) 13:30～15:30

「自然人類学からみた原始・古代の関東の人々」

講師：藤田 尚（新潟県立看護大学准教授）

第4講

11月6日(金) 13:30～15:30

「縄文人たちは『野川』をどう感じ、どう暮らしたか
—遺跡・土器の〈かたち〉から考える・入門—」

講師：高麗 正（三鷹市教育委員会）

第5講

11月20日(金) 13:00～16:30

東京都埋蔵文化財センター共同事業

「モノ・人の動きから多摩・武蔵野の縄文時代を眺める
—西東京市下野谷遺跡、多摩ニュータウンNo.72遺跡を基点として—」

講師：山本孝司（東京都埋蔵文化財センター調査研究部）

会場：東京都立埋蔵文化財調査センター（多摩市落合 1-14-2）

13:00 東京都立埋蔵文化財調査センター集合。座学・見学の後、16:30 解散

■場 所

国分寺労政会館（予定）(JR中央線国分寺駅南口より徒歩5分)

第5講のみ東京都立埋蔵文化財調査センター

(小田急・京王多摩センター駅より徒歩5分、多摩都市モノレール多摩センター駅より徒歩7分)

■参加費

無 料

■申込方法

記入例を参考に往復ハガキで一人様1枚でお申込みください。

■申込締切

平成27年9月4日(金) 当日消印有効

■定 員

120名(定員を超えた場合抽選となります。)

■申 込 先

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6階
多摩交流センター内「多摩の歴史講座」係

■お問い合わせ

《講座内容について》たましん地域文化財団 TEL 042-574-1360

《お申込みについて》多摩交流センター TEL 042-335-0100

返信表面に
住所・氏名を
忘れずに

記入例：往復はがき（往信裏面）

自分の住所・名前

- 歴史講座
受講希望
- ① 郵便番号
- ② 氏名(ふりがな)
- ③ 年齢・性別
- ④ 電話番号

「多摩交流センターだより」の問合せ先

(公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6階

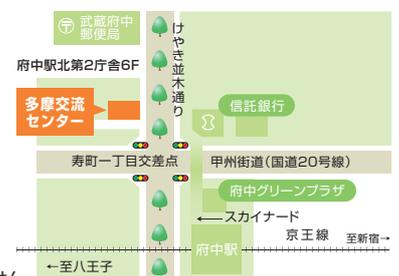
TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127 Eメール tama001@tama-100.or.jp

ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/> (当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆多摩交流センターは、広域的市民ネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。

ご注意：駐車場はありません。

大國魂神社 ↓



自治調査会の調査研究を振り返る～最近のトピックスとの関わりなど～

当調査会では、昭和61年の設立以来、200件を超える調査研究を実施してきました。対象テーマは、多摩・島しょ地域の39市町村からの要望やその時代の行政課題を踏まえつつ、少し先の将来に重要課題となると考えられる事項を選定しています。

報告書は毎年度、都内全市町村へ送付し、多くの事業の参考などに役立てられていますが、活用方法は各市町村に委ねられています。それは各市町村が置かれたそれぞれ異なる状況に応じ、実情に即した施策を実施する必要があるからです。

最近、メディアなどで「少子高齢化」や「人口減少」の話題を見かけない日はないほどです。しかし、それが自治体の行政に及ぼす影響は様々で、具体的にイメージすることは意外と難しいものです。

そこで、本稿では、当調査会の過去の調査研究を振り返り、それが最近のトピックスである「少子高齢化」や「人口減少」とどのように関わっているのかを明らかにします。そして、今後の当調査会が何を目指して調査研究を行っていくのかということについても紹介していきます。

1. 人口減少期における多摩地域の「縮む」未来図（平成22年度）

平成22年度に実施した標記調査研究では、多摩地域30市町村の当時の地域特性・住民の移動構造などを調査し、少子高齢化・人口減少が多摩地域に及ぼす影響や将来課題をまとめました。

報告書において、多摩地域の人口のピークは2015年とみられていました。現在はまさにその年です。報告書作成から5年。根拠となるデータは少し古くなりましたが、予測の大勢は今も変わりません。

報告書で挙げた「住宅や土地の需要の減少による空き地空き家の増加、施設の余剰など」の問題については後年、別途調査研究に取り組みました。そして、それらは現在、大きな社会問題となっています。



2. 高齢者の社会的孤立の防止に関する調査研究（平成23年度）

平成23年度に実施した標記調査研究では、高齢者の社会的孤立の発生状況などを調査し、自治体の孤立防止対策のあり方をまとめました。

上記の「人口減少期」の報告書では、多摩地域が大規模な宅地造成により流入人口を支えてきたため、年齢構成が一定範囲に集中しているという特徴に言及しています。これは、高齢化が急速に進み、社会的孤立の問題が深刻化しやすい構造であるということも意味します。

加えて、子どもは成人し家庭を持つと多くは親元を離れます。全国の数字で、昭和61年には65歳以上の人の家族構成は「単独」と「夫婦のみ」をあわせて3割強でしたが、以後25年の間に5割を超えました。このことは、下記の「空き家」の問題にも深く関係していきます。



3. 自治体の空き家対策に関する調査研究（平成25年度）

平成25年度に実施した標記調査研究では、空き家問題の現状などを調査し、自治体の空き家対策のあり方をまとめました。

空き家問題は一義的には私有財産の問題ですが、地域の衛生環境や景観を悪化させ、犯罪や火災の温床ともなるため、自治体にとっても大きな問題です。

平成27年5月には特別措置法が全面施行され、老朽危険空き家に関して「解体・除去も可能に」といった記述をメディアで見かけた方も多いためと思います。

しかし、全国の空き家の数はここ25年の間に約2倍になり、増加の一途です。その発生状況の把握ですら、行政だけでは効率的ではありません。空き家の発生予防、そして活用は地域全体の課題となってきています。



4. 市町村の公共施設の運営に関する調査研究(平成26年度)

平成26年度に実施した標記調査研究では、公共施設マネジメントに関する自治体の取組状況や住民意向などを調査し、今後のあり方をまとめました。

少子高齢化・人口減少は、学校などを含めた公共施設の利用者が減るとともに、その維持更新コストを負担する納税者が減ることを意味します。ここでも、多摩地域の今後の高齢化が急速であることが影を落とします。

今後、高度成長期からバブル期に建設された公共施設が更新期を迎えるにあたり、国は平成26年4月、自治体に対して長期の管理計画の策定を要請しました。

公共施設のあり方についても、将来を見据えた新たな考え方が求められる時代となっています。



5. 今後に向けて

少子高齢化などが自治体の行政に及ぼす影響の一端をみてきました。これらからわかるように、今や、人口減少の程度を単に予測する段階は過ぎ、その影響への具体的な対応策を多面的に考えることが必要な時代となっています。

本稿をお読みの皆様にも改めて、少子高齢・人口減少社会における諸課題への対応策について考えていただけたら、その一つひとつが良い市町村行政につながっていくと思います。

あるテーマが社会的に注目されるまでには少し時間がかかるものです。当調査会としては、現場である市町村がタイムリーに施策を展開できるように、「一歩先を見据えて」課題を発見し、調査研究に取り組んでいきたいと考えています。

※本稿に紹介された調査報告書は、いずれも当調査会ホームページ
(<http://www.tama-100.or.jp>)にてダウンロードできます。



○2015年6月号(No.021)の7ページに掲載された「多摩・島しょわがまち活性化事業助成事業」のNo.21稲城市の事業名称に「観光推進事業羽村の魅力創出事業」とあるのは「観光推進事業」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。



編集後記

- 8月に入り、夏本番を迎えました。蝉の鳴き声が大きくなり、一層暑さが増幅したように感じるのは私だけでしょうか。蝉は成虫になるまでは、3年から17年も土の中で暮らし、晴れた日の夕方に地上に出て木に登り、孵化します。孵化後の寿命は数週間程度とされ、この短い期間を懸命に生きて、次の世代につないでいます。何とも健全な生涯ではありませんか。蝉の鳴き声を迷惑がらず、夏の風情としたいものです。
- さて、「日本創成会議」が、先々月、高齢化に伴う将来予測を発表しました。それによると、今後10年間で東京圏(1都3県)では、急速に高齢化が進み、医療・介護体制が追いつかなくなり、特に介護施設では約13万人分が不足し、多摩・島しょ地域においても、約7千人が不足するため、元気な高齢者の地方移住を促進するという大胆な内容です。
- 当調査会では、この発表に先立つこと5年前に、少子高齢化・人口減少が多摩地域に及ぼす影響や課題を報告書(「人口減少期における多摩地域の「縮む」未来図」)にまとめ、各市町村に配布しました。同報告書では、多摩地域の人口減少と同時に急速に高齢化が進み、高齢化に伴う要介護者増加への対応、交通弱者や空き地空き家の増加によるコミュニティ機能の低下に伴う地域経済の縮小等が懸念されるとして、各市町村に必要なとされる対策を図るよう警鐘を鳴らしました。
- 同報告書が指摘する重要性、緊急性に鑑み、当調査会では、順次、調査研究を実施しています。本号の「自治調査会の調査研究を振り返る(6~7ページ)」で紹介している調査研究に加え、「多摩・島しょ地域における火葬場の需給及び運営に関する調査研究」(26年度)のほか、本年度は、「高齢社会における「ヒト」と「モノ」の移動に関する調査研究」を行います。
- このように、当調査会で実施する調査研究は、多摩・島しょ地域の39市町村の広域的な共通の行政課題や市町村が抱え、近く課題となるであろうテーマを先取りし、自治制度、都市整備、自然環境、産業振興や健康・福祉等多様な視点から地域の未来の姿、一歩先を見据え、調査研究を行い、各市町村の事業実施に活用するための具体的な取組を提示しています。言わば、顕在化しない段階で課題を掘り起し、早期に問題解決の一助となる方策を提示しています。
- 冒頭でご紹介した蝉は、長期間、土の中で養生し、世に忽然と出現し、私たちを喜ばせてくれます。当調査会は、蝉のように、今後出現するであろう課題を深堀し、社会の役に立つ調査研究を通じて市町村の発展に貢献していきたいと思っています。今後も当調査会の調査研究報告書のご活用をよろしく願います。
(M.M)



とっておきスポット

第11回 利島村



利島村といえば、樁を連想するかもしれないけど、
今回はわたげのボクが「南ヶ山園地」を紹介するよ。



南ヶ山園地は、利島の南側に位置する新東京百景にも選ばれた景勝地なんだよ。

都会の喧騒からは想像できないほど静かな場所で、風の音や鳥のさえずりを聴きながら、ゆっくりと遊歩道を散策することができるんだ。

天気の良い日には、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島までの伊豆諸島を一望できるんだ。雄大な自然の景色に心が奪われるよね。



陽が落ちると、南ヶ山園地には昼間とは違った静寂が訪れるんだ。

周辺には街灯もないから、夜になると満天の星空が広がるよ。空気が澄んでいるから、日本人になじみの深い、織姫や彦星といった夏の大三角をはじめとして、たくさんの星座を見つけることができるはずだよ。

肉眼で天の川が見えるのも、利島の星空の醍醐味だよ。刻一刻と変化する星空を眺めながら、大自然の力で心を癒すことができるよ。みなさんもぜひ、ふわっといってみて！



【現地案内】



利島港から車で15分

【情報・写真提供】 利島村総務課



【発行日】 平成27年8月1日

【発行】 公益財団法人 東京市町村自治調査会

【責任者】 岸上隆

〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館4F TEL 042-382-0068

ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>



再生紙を使用しています。